

# 事故対策データベースの構築

道路研究部 道路空間高度化研究室 室長 岡 邦彦 主任研究官 瀬戸下 伸介



## 1. はじめに

交通事故抑止対策のより効果的な立案、効率的推進、適切な対策効果の評価のためには、過去に実施した事故多発地点緊急対策事業などにおける対策検討において得た情報を共有化し、これらの知見を活用することが重要である。このため、「交通事故対策・評価マニュアル」及び「交通事故対策事例集」による事故対策検討を支援する「事故対策データベース」を開発した。

## 2. 事故対策データベースの概要

### (1) データ項目

データ項目は、過去に行った事故多発地点に関する調査の項目をもとに、「交通事故対策・評価マニュアル」の内容に基づいて、事故抑制対策前の対策立案時に必要なもの及び対策後の対策効果評価時に必要なものに整理した。

### (2) システムの機能

基本的な機能として、データ入力機能のほか、設定条件に一致する箇所を検索し、閲覧するための事例検索／閲覧機能、必要なデータ項目を電子ファイルに出力するためのデータ抽出機能を持たせている。

データ入力時には、事故発生の要因分析から対策検討過程までを順を追って記載するようになっており、自動的に体系的な対策検討も支援するものとなっている。

また、事例検索／閲覧機能の画面の遷移は図-1のとおりであり、この機能を用いることにより、2003年度に指定された全国の事故危険箇所の中から、類似した道路特性を持つ箇所や、同じ事故要因をもとに事故抑止を実施した箇所等、参考にしたい事例を効率的に参照することにより、対策検討に役立てることができる。

データ抽出機能による出力データを利用することにより、事故抑止対策の分析や評価、事業の進捗管理などを行うことができる。検索条件の設定は、項目指定画面によりデータベースに入力してある情報項目を、事例検索／閲覧機能の検索条件設定と同様の操作により行う。また、市販のソフトウェアの利用により、出力したデータの集計やグラフの作成も可能である。

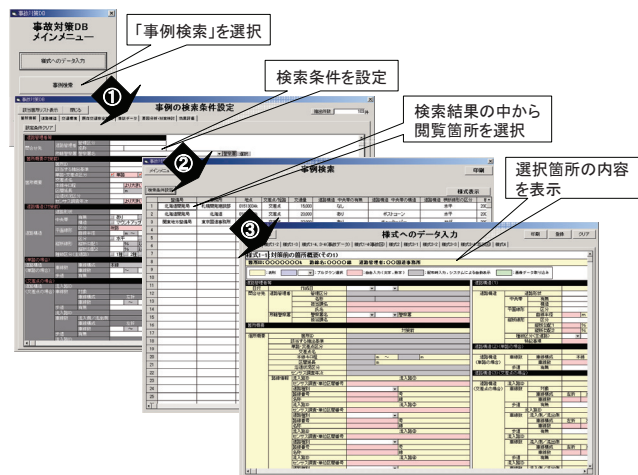


図-1 事故対策データベースの画面遷移例

## 3. 今後の取り組み

本データベースは、国、都道府県、政令市の各道路管理者による運用を予定しており、他の対策事例の活用、対策内容の抑止効果の分析、自ら実施した対策箇所についての客観的な評価の実現により、より効果的な事故対策の立案が可能となることが期待される。

今後は、本データベースを充実させていくため、多大なデータを効率的に蓄積する方法の検討を進め、さらに、実際に運用された際に生じる課題等を把握し、より利用しやすいものにしていきたい。